

風土記の丘の花だより²⁷³

今、そしてこれから見られる植物(2025年5月17日)

初夏の日差しが日に日に強くなってきました。紫外線対策をして山歩きを楽しんでください。トンボやチョウもよく見かけるようになってきました。野山が生き生き、元気に見える季節です。



ガマズミの花が咲いて、眩しく輝いています。小さい真っ白な花がたくさん集まっています。このような花のかたまりを「花序・かじょ」といいます。真っ白な花は日光をはね返し、独特の香りとともに虫にアピールしています。私たちには少し不快な香りかも知れませんが、それに誘われて多くのハナムグリやカミキリムシ、アブ、チョウなどの多くの昆虫が集まってきます。花粉を食べたり、蜜を吸ったりしながら、受粉を手助けし、秋には真っ赤な実がみのるのです。



あちらこちらのカキノキに花が咲いています。柿は秋の果物としてなじみ深いですが、花は初夏に咲きます。カキノキは風土記の丘では、山の中にも点々と生えていますが、坂の途中のトイレの手前や、万葉植物園の一番上にも植えられたものがあります。ふつうに見られるカキノキの花はほとんど雌花でしょう。稀に雄花が咲くこともあるようですが、改良がすすみ、雄花がなくても実ができることが多いのだそうです。



余り見慣れない花だと思います。チャンチンモドキいう木の花です。チャンチンという響きからも何となく分かるように、中国から渡ってきた木です。チャンチンは「香椿」と書いて、センダン科の別の木です。それに似ているので「擬き」です。でもこの木はウルシ科で、ハゼノキなどの仲間です。この木は私が「風土記の丘」に来た6年前、どなたかからいただいた小さな鉢植えでした。それを今の場所に定植し、7年目に初めて花が咲きました。雌株なら実ができるのですが、どうやらこの木は雄株のようです。



日当たりのいいところに白や赤紫のニワゼキショウの花が咲いています。とてもかわいいですね。名前は「庭に生えるセキショウ」という意味ですが、セキショウは、余り馴染みのない植物ですね。でも、山裾の用水路ぞいや、川岸の岩の上などで見かける草です。ショウブの仲間で花は咲いても目立たず、細長い葉だけなので、目にとまることはないでしょうね。それと何が似ているのかよく分かりませんが、葉の様子でしょうか。ニワゼキショウはアヤメの仲間で、セキショウと同じ仲間ではありません。

松下